

三条教区通信

第 61 号

発行日 2012年7月1日
 発行者 三条教務所長 鷲尾 幸雄
 発行所 真宗大谷派三条教務所
 〒955-0071 三条市本町 2-1-57
 E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
 URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

今月の法語

〔法語カレンダーより〕

しょうじ
生死のうみに

うかみつつ

うじょう
有情をよぼうて

のせたもう

しょうぞうまつわきん
『正像末和讃』真宗聖典」505 頁

東日本大震災三条教区災害救援金

皆様にご協力いただいております三条教区独自の
救援金は、2012年6月28日現在、総額 12,571,670
円となりました。

これまでの救援金寄託状況は以下のとおりです。

2,000,000 円 東京教区 2012年2月14日

10,000,000 円 仙台教区 2012年4月13日

ご報告いたしますとともに、ご協力の御礼を申し上げます。

教化委員会からのお知らせ

御坊市報告

6月16、17日に三条別院の本堂、諸殿にて「御坊市」を開催致しました。

この「御坊市」は教区の青少年研修会部門の事業「別院フォーラム」の一つ形です。様々なメディアに取り上げていただき、多くの方々に「御坊市」を知っていただけたと思います。

「御坊市」には、2日間併せて、約 2,500 名の来場

者があり、一言で言えば大盛況でした。ただ、多くの人が集まったからよかったという訳ではありません。今回、御坊市を開催して、お寺のあり方、僧侶という立場、色々な面で多くの課題や問題をいただいたと思っています。



出店者に挨拶する関了悟氏(中央) 於別院本堂

一つに、私達僧侶が考えている寺院や僧侶のあり方と一般の人が求めている寺院や僧侶にとってもギャップがあることを感じました。

念珠作りや僧職男子にお悩み相談、諸殿拝観といった企画をしました。初めは形だけという思いがどこかにありましたが、来られた人の中には、本当に念珠を作りたい、また本当に悩み相談をしたいという方が大勢いたことに喜んだ反面、私達寺院がそういった方々を受け入れる窓口がとても少ないのではないかと反省している部分もあります。

教区や組、また各寺院で様々な教化活動をしていると思いますが、既にご縁のある方々に対する更なるご縁作りとしての教化活動がどうしても中心となっているのではないかと思います。

普段、お寺にご縁のない方々に対して、今後どのような形で関係を作っていけるか。どう受け入れていくか。それが「お寺を開いていく」、このことを考えるきっかけにもなりました。寺離れという言葉は私達はよく使いますが、実はお寺や僧侶を本当に必要と思っている方々が多くいて、そういった方々を受け入れる場をもっていかなければならないのだと感じました。



今回の別院の本堂を使って市場を開く、そのことについて様々な意見があるとは思いますが。ただ良い悪いではなく、本堂の意味、またお寺の意味というのを、僧侶や推進員の方だけではなく、色々な立場の方と一緒に考えていければと思います。御坊市が大盛況で成功したということで終わらせるのではなく、次に繋がりが、広がりを持てる事業にしていきたいと思っています。

是非とも、様々なご意見をいただきたいと思っています。
青少年研修会部門幹事 関 了悟(第20組 楽運寺)

■カルト問題学習会(住職研修会)報告

大谷派教団の中の某専門学校を卒業された方の多くは、冗談で「洗脳されてきました」と言う。

今回の講義をいただいて、ふとそんなことを思い出した。



ご講義いただいた四衛 亮氏(青少年センター幹事
高山教区不遠寺住職)

私とカルトに入信されている方の違いはどこだろうと考えたときに、前大谷専修学院長の故竹中智秀先生のことややはり頭に浮かぶ。私は竹中先生に出遇ってここにいる。カルトの方もどなたかに出遇ってここにいる。この点について違いはないが、大きく違うことは御文一帖目第一通に、

そのゆえは、如来の教法を、十方衆生にとときかしむるときは、ただ如来の御代官をもうしつるばかりなり。さらに親鸞めずらしき法をもひろめず、如来の教法をわれも信じ、ひとにもおしえかし

むるばかりなり。そのほかは、なにをおしえて弟子といわんぞ

とあるように、私に阿弥陀様というお方がいらっしゃることを教えてくださり、そのお方が私を助けてくださっておられるのだということを、身を徹して具体的に教えてくださったことではないだろうか。ゆえに、私は竹中先生に出遇うことで救いということを実感することはあったが、竹中先生ご自身に救われたとは今でも思っていない。

こういう確かめは浄土真宗門徒の歴史において大切にしてきたことの一つに必ずあったのではないだろうか。救主はどこまで行っても弥陀一佛であるが、その許へ導いてくださる先達たちは多くおられる。たまたま縁あって先達に出遇えたことで、その事にも気づくことが出来ただけではないだろうか。救主と教主が一体であると言うようなカリスマ性に魅了されることは、そういう出遇いが無ければ、私にも十分考えられる。

私はいつでも間違ふような気がしている。教えを聞き続けても、自分の中だけで確認しているときは、教えそのものも自分の都合で捻じ曲げていく。だからこそ、確かめ合い、時には教え合い、聞き合う。縁あって出会った方とはそういう形で共に阿弥陀様を尋ねていきたいと今回の講義であらためて聞かせていただいた。

御遠忌同朋会運動推進部会 直江弘憲(第18組長願寺)

■仏青報恩講報告



仏青報恩講をお勤めする若手僧侶たち

6月25日、三条別院にて「仏青報恩講」が勤まった。今年度の仏青では連続講義として「KANGYO primary school」を開催してきたことを踏まえ、その総括的位置づけとして、観経和讃にて「仏青報恩講」をお勤めし、自己を確認する場としたいという思いの中で開催された。

法要後は座談会を行い、それぞれの思いを語り合うことができた。個々が抱える普段の問いをぶつけ合い、

対話を重んじた仏青独自の報恩講の厳修となったのではないかと感じた。



座談会の様子
三条教務所 五辻広大

推進員教習についての研修会報告

2012年5月21日(月)午後より、「推進員教習についての研修会」が、推進員教習(推進員養成講座含む)の趣旨の確認と今後の取り組みについて話し合うことを目的として、講師に今泉温資氏をお招きし開催されました。



今泉温資氏(右)(往生人舎主宰)

今泉先生には、教区内各組で実施された推進員養成講座ならびに教区推進員教習の講師として長年に亘り関わっていただいております。そのご経験から問題提起を含めて講義をいただき、その後、3班に分かれて座談会、そして最後にまとめの講義という日程で行われました。

座談会では参加された各組推進員養成講座スタッフ・各組推進員連絡協議会役員・同朋の会教導の方々から、これまでの養成講座の取り組みに対する課題など活発な意見が出されました。

今後のさらなる活動に向けて、関係される多くの方々との連携が益々重要になることを改めて確認された研修会となりました。

研修会のご案内

■ 全戦争犠牲者追弔法会

開催案内同封

- ◆日時 2012年7月7日(土)14:30～
- ◆会場 三条別院本堂、同朋会館研修室
- ◆内容 法要、映像上映
- ◆参加費 500円(研修冥加金)
- ◆問合せ 三条教務所(担当:五辻)

■ 第50回児童夏の集い

開催案内同封

- ◆日時 2012年8月20日(月)～22日(水)
- ◆会場 栗島
- ◆テーマ 友達の輪
- ◆対象 小学3年生～中学3年生
- ◆定員 60名
- ◆参加費 10,000円
- ◆問合せ 三条教務所(担当:五辻)

■ 夏期子ども会巡回

開催案内同封

- ◆日時 2012年8月中
- ◆内容 紙芝居の上演、ゲーム等
- ◆対象 各寺院・教会・保育園・幼稚園等
- ◆問合せ 三条教務所(担当:五辻)

「児童夏の集い」参加者募集のお願い!

夏の集いの開催まであと2ヶ月を切りました。参加児童の定員にまだまだ空きがございます。ぜひとも引き続き参加奨励いただきますようお願いいたします。

詳細は上記をご覧ください。

教務所からのお知らせ

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗派が1951年11月よりラジオ伝道として放送している「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きいただけます。

- 講師 6/4～7/15 四衢 亮氏(高山教区)
- 7/16～8/26 渡邊 学氏(三条教区)
- (変更になる場合があります)

○放送局 BSN新潟放送

- *新潟県全域をカバー
- ・小出エリア 1026KHz
- ・中越エリア 1062KHz
- ・下越エリア 1116KHz
- ・塩沢エリア 1485KHz
- ・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日午前5:00～5:10

○提供 吉運堂様

◎教区行事予定表

2012年	
7/4(水) 13:00 14:00	大谷保育協会三条支部理事会・総会 児童夏の集い執行部会議
7/5(木) 14:00 17:00	坊守会たより編集会議 教学研究会輪読会
7/6(金) 14:00	児童夏の集い全体会議
7/7(土) 14:30	全戦争犠牲者追弔法会
7/10(火) 14:00	大谷大学同窓会三条支部役員会
7/11(水) 14:00	教区監査
7/12(木) 14:00	真宗学院運営委員会
7/13(金) 14:00	教区御依頼適正審議会
7/17(火) 14:00 ～18(水)	企画委員会 児童夏の集いスタッフ研修(栗島)
7/19(木) 16:00 17:00	教化センター閉講式 如来会学習会(教学研究会有志)
7/20(金) 10:00 14:00	教区門徒会常任委員会 教区会参事会
7/23(月) 13:00 14:00	推進員連絡協議会総会 靖国問題研修会部門会議
7/24(火) 13:00 14:30	教区会特別委員会 教区会決算委員会
7/25(水) 14:00	教区会予算委員会
7/26(木) 14:00	別院責任役員会
7/27(金) 13:30	教区会
7/30(月) 10:00	教区門徒会
8/3(金) 10:00	別院院議会
8/8(水) 13:30	正副組長会
8/11(土)	～15日(水) 教務所夏期事務休暇
8/20(月)	～22日 第50回児童夏の集い
8/29(水) 14:00	企画委員会
9/3(月) 14:00	KANGYO primary school
9/4(火)	大谷大学同窓会(三条支部)
9/14(金) 14:00	企画委員会
9/29(土)	宗祖七百五十回忌・真宗教団連合結成四十周年記念大会
9/30(日) 9:30	保育講習会
10/5(金) 14:00	KANGYO primary school
10/15(月) 14:00	企画委員会

* 行事日程(会場)重複防止の便宜上、教区・別院主催以外の行事が一部含まれています。また、日程は変更される場合があります。

◎出版物のご紹介

冊子『お盆』-2012年版-(60円)

お盆という大切な仏事をとおして、私たちが忘れかけている「いのち」のつながりや広がりを考えていく小冊子です。

本年は三条教区明正寺住職の渡邊 学さんに、「いのちの故郷へ帰ろう」、奥羽教区浄光寺坊守の枝川孝子さんに「お盆に思うこと」と題して執筆いただいております。また、グラビアページには、写真家 今森

光彦さんの写真と文章を掲載しています。

ぜひご門徒の方への施本としてご活用ください。

お申し込みは三条教務所までお願いします。



グラフ 2011 年宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌
(1,200円) 2012/06/28 発売

宗祖御遠忌に遇えた感動を、いま再び!



2011年4月・5月に厳修された宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の法要及び催事を写真で振り返るダイジェスト版。50年に一度の勝縁である御遠忌に遇えた感動を、いま再び! 2011年3月の東北地方太平洋沖地震災害「被災者支援のつどい」、11月の宗祖親鸞聖人七百五十回御正当報恩講、井上雄彦氏作屏風「親鸞」、2012年3月の東日本大震災被災者支援のつどい「いのちの響舞台」も収載。

2012年度年間書 注文書

法語カレンダー、『今日のことば』、『報恩講』、大谷派手帳、『真宗の生活』については、今月の教務所からの全寺院発送物に封入しております「2012年度年間書 注文書」にてご注文ください。

所員のつづやき ~五辻広大~

「別離等の苦にあうて悲歎せんやからをば、仏法のくすりをすすめて、そのおもひを教誨すべき事。(『口伝鈔』) 仏法のくすりが何なのか、ずっと気になっている▼「酒はこれ、忘憂の名あり。」これはF氏に教えてもらった言葉。酒には「忘憂」(憂いを忘れる)という別名があるようだ。生きていくいろいろな苦しみに息詰まって、自分の思うようにならず、つらく苦しい思いに自分を見失う。そんな時は酒を勧めて共に飲んで笑って慰めて…。僕は、寂しいときや悲しいときは、「憂い」をなんとかしたくて酒を飲みたくなる。そんなどうしようもない自分を受け入れてくれたと、この言葉に出遇ったときそう感じた▼最近考えていることは、「忘憂」とは現実逃避の手段ではなく、“不安に立つ”ためのくすりなのではないかということ。だからこそ、「憂い」を忘れないように、今日も「憂い」をノートに書きとめようと思う。いつしか、その「憂い」だらけのノートを読み返したとき、「憂い」も自分自身だと思える日がくるかもしれない▼休日は、温泉に浸かりぼーっとするのが好き。これもまた僕にとっての「忘憂」である。「憂い」だらけの人生。本寺小路か温泉で僕を見かけたら「仏法のくすり」をすすめてください。

新潟親鸞学会からのお知らせ

【親鸞学会入会の申し込み・お問い合わせ】
 新潟親鸞学会事務局 担当 富沢慶栄
 〒951-8061 新潟市中央区西堀通二番町 783 超願寺内
 ☎025-222-2820 FAX 025-222-2830
 Eメール choganji@nifty.com
 新潟親鸞学会デスク(ブログ):
<http://niigata-shinran.cocolog-nifty.com/blog/>

三条仏青有志会ボランティア

去る6月 21 日、東北別院において開催された「福島の子どもの一時受入事業に関する情報交換会」(主催:本山組織部・現地復興救援センター)に参加して来ました。当日は本山、支援センター、仙台教区を含め、全国より 27 教区、50 名程の参加者でした。期日の迫った案内と原則教区より 1 名ということで広く参加を声がけできませんでしたが、簡単にご報告させていただきます。

ご承知のように、放射能被曝の問題は、日々深刻化する中、一方では、政府や東電や報道影響を受け、風化し、過去と片隅に追いやられようとしています。し

かし、その問題は、特に福島県内に居住されている人々たちにとっては、未来や、希望さえも失ってしまいそうになる程、苦悩に満ちた現実です。そのような状況の中で、特に子どもたちや、その保護者たちは、本当に疲れ果てようとしています。その現実に対する具体的支援として、「福島の子どもの一時受入事業」が全国的にも展開されています。

大谷派においても、各教区が昨年より実施し(昨年は6教区7回)、本年も計画が予定されています(本山及び 11 教区程)。その実施並びに予定における課題や問題点、様々な工夫点等が情報交換されました。あらためて深刻な問題であり、長期・継続的な支援が必要であると感じています。

三条教区は、福島県とは隣県、隣教区であることもありながら、その支援体制・活動はまだ消極的に感じるところもあります。今後は教区内一人一人への周知やご理解を深めながら、具体的な支援が実施できる様、有志会としても準備していきたいと思っています。是非とも皆様の意見やお力を貸して頂きます様、よろしくお祈りいたします。

(巨谷 学 記)

【三条仏青有志会】

連絡係 藤井信彰(14 組長楽寺) shinsho@nct9.ne.jp

